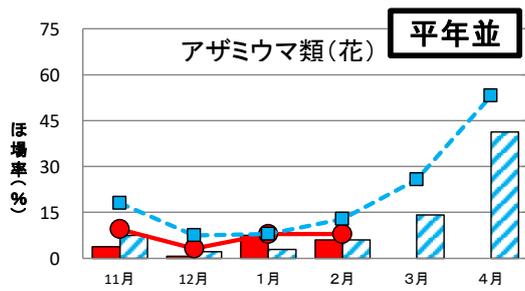
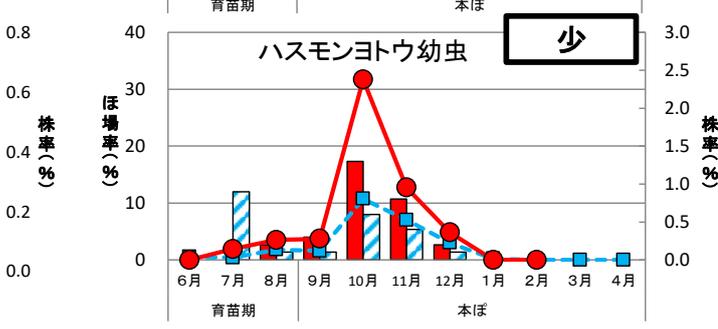
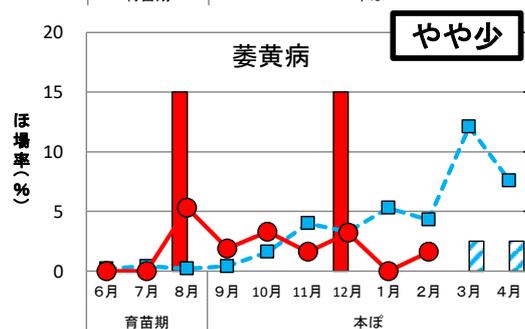
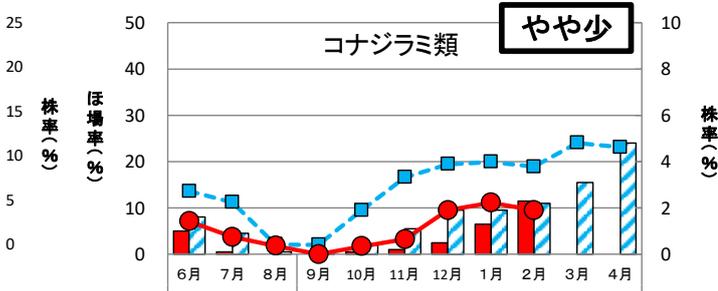
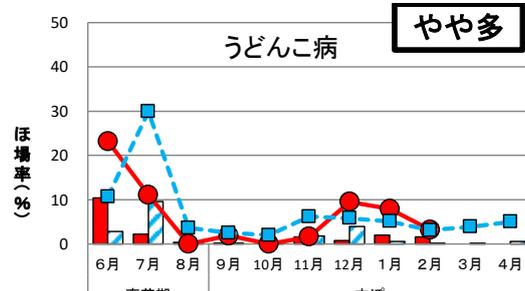
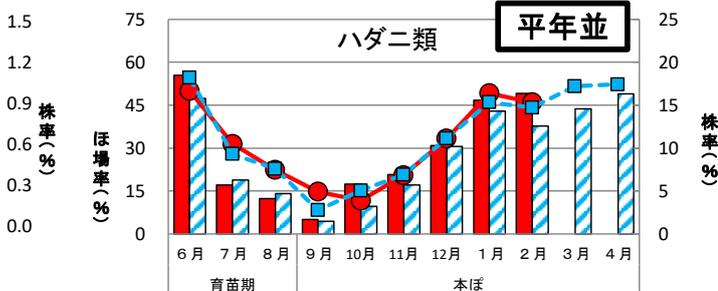
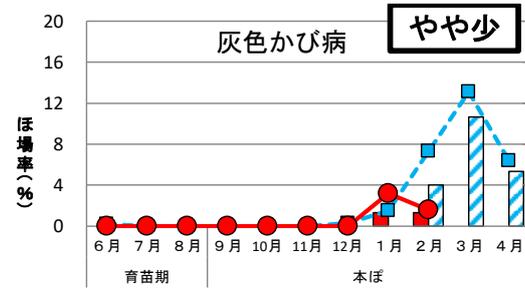
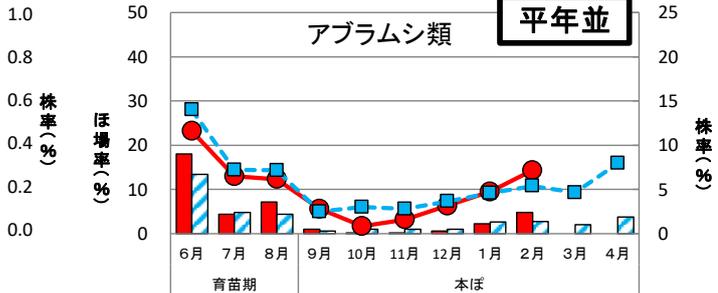
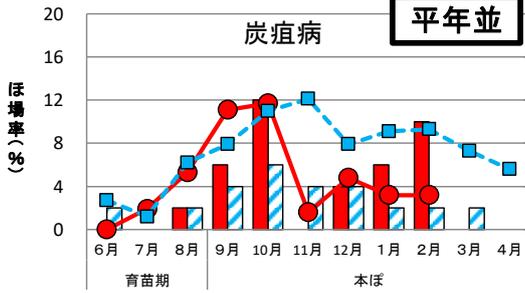


いちご病害虫情報第9号 (2月)

令和8(2026)年2月24日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数 63 か所】



■ 本年 株率 ■ 平年 株率
● 本年 発生率 ■ 平年 発生率

※ほ場あたり25株調査

※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株

※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー 灰色かび病の対策 ー

例年2～4月は発生が多くなる時期です。予防を主体に管理しましょう。

- 1 多湿条件において発生しやすいため、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、適切なかん水を行う。
- 2 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- 3 予防を主体に、セイビアーフロアブル (FRAGコード:12) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。

※ [灰色かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページに掲載中。

■ 今月のトピックス コナジラミ類

形態と被害

コナジラミ類は成虫の体長が1～2mm程の白い小さな虫で、いちごにおける主要種はオンシツコナジラミです。

主な被害は、本虫の排泄物が付着した果実等に黒いかび（すす病）が発生することによる商品価値の低下です。また、多発生した場合には、成虫が大量に飛翔して作業の妨げになることや、吸汁加害による株の生育不良も生じることがあります。

防除対策

暖かい時期になると発生が増加します。発生が多くなると防除が困難なため、発生状況をよく確認し、発生初期に防除しましょう。

- 1 施設内外の除草を徹底する。いちご以外の野菜、花き類はハウス内に持ち込まない。
- 2 ラノーテープを各畝の上に設置し、増殖を長期間抑制する。
- 3 幼虫は葉裏に寄生するため、薬剤散布は葉裏にもよくかかるように行う。
- 4 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- 5 栽培終了時にハウスの蒸し込みを行い、野外に出さないようにする。

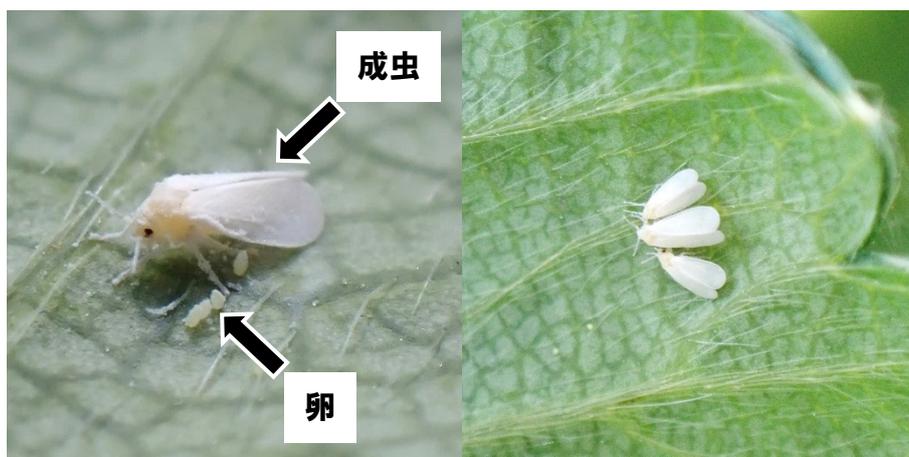


写真1 オンシツコナジラミ成虫・卵



写真2 オンシツコナジラミ幼虫